

東由利村報

No. 70

1963・1・1

発行 東由利村役場
印刷 KK本間印刷所

さらに鳥海山麓酪農の大を

12月16日

酪農5カ年計画達成記念式



村では酪農振興5カ年計画の最終年次にあたり当初計画をみごとに達成したのでその記念式を12月16日下郷中学校で挙行了。これには県知事はじめ関係機関、団体長、村議会議員、酪農家など300人が出席し、新しい村づくりの基礎づくりを果した喜びをわかちあうとともに、いつその発展を誓いあつた。

過去をかえりみて感がい無量

村長式辞要旨

本村の酪農はここ5カ年に飛躍的發展し、いまや県内の酪農村の一員として仲間入りできるまで進んできたことは、過去をかえりみて感がい無量なものがある。この間における関係者の労苦は並

たいていでなく、しかし村の指導陣と当業者は確固たる信念と熱烈たる情熱を燃やしてあらゆる不利な逆境に耐え、まっしぐらにこの途を歩んできた努力はいま多くの実を結びつつあり、また酪農は近代成長産業として農政上において重要性を認められるにいたつたこと



新年おめでとうございます。

今年もよろしく願ひいたします。

村民の一人一人

の生活が豊かになり住みよい生活の環境がつけられること...これは村民の皆様方の心からの願ひであろうと思われま

す。私も村長就任以来、常にこのことを最大の眼目として村行政にあたつて参つたのであります。幸いにも本村の各事業や道路整備は村民各位の協力と努力によりまして、年々拡大の道を進んでおり、その経済規模は増大し村民の生活内容もこれにともなつて従前に比べますと格段の向上がみられるようになり、私も大変喜ばしく思つております。しかし、日本の経済は急テンポに成長し文化の思沢は洪水のような勢いでおしよせてくる中で東由利村の現況はまだまだ遠いのであります。

普通の行政では共に発展はむづかしいので、とくにへき地部落「日のあたらぬ人々」に日が

当るようにするため特段の配慮をつくしたつもりです。すべては軌道にのりはじめたところ

です。国や県庁、国会議員や県議会議員上級各種団体の協力と援助は大したもの

であります。多くの村民は村の指導陣と力を合せ、確固たる信念と熱烈たる

能力・努力・資力

村長 阿部直一郎

情熱を燃やしてあらゆる苦難に耐え、まっしぐらに進んで来た大多数の人々の清純な努力はすべての村勢に多くの実を結んだのであります。

新しい村づくりはこれからの「労働力」を予測してかゝらぬばなりません。農地の集団化を主目的にした広範囲の土地改良が実施され、大型農具を移入して労力の節減を計り、挿秧（そうおう）においても直蒔にかえるなど充分な研究のもとに進めねばなりません。しかし農業労働力の節減にのみ気をとられ、これまでの進歩した稲作栽培技術を昔に逆戻りさせてはなりません。酪農事業はなぜ伸びないか

何れに起因するかの問題であるが、これまで1頭や2頭の馬や和牛は山野の野草でも飼われてきたが酪農は山野の自生する雑草ではできない。

これからの農業問題は高度の所得の増進にあるのだから、これまでの生まやさしい気持ちではできません。

塩漬けのイワシで冷飯を食い込み、はんき碗でドロクのんで満足した生活では出来なくなつてきました。農村も農民文化という流行に冒され、その形式文化の生活に入ろうとモガイしている姿はコッケーだと都会の人々はいっている。

今にして所得を大巾にふやし、計画をたてて進まないとい産業や他の地域とますます格差が生ずるし農村は自滅に追い込まれるばかりであります。

新農村の建設は能力・努力・資力の三つの力を合せることによつてのみ達せられる。

東由利村全戸の8割の農家は年間「百万円」の収入を得る10年後の夢をえがいて昭和38年の新春を迎えたいと思います。

は喜びにたえない。

そして畜産物安定法などが制定され、政策的にも一歩前進したのであるが、しかしそれですべてが解決されたわけでない。やはり当業者が真剣に問題の解決にあたることが原則である。

しかも今日おかれている日本酪農

の現状を考えると、その基盤はなお弱く、安定不動の体制を確立するためには基調をなす「精神的つよいつながり」をもつ必要性がますます痛感される。

矢島・鳥海・由利・山本の各町村民と協力しあい、結束を固め「共同」の精神に立つてあまたの難局

を打解し、障害をのりこえ、鳥海山麓の酪農の大を築き、脈々として継承されていく基盤のつよい村づくりに恵念していききたい。

謹 賀 新 年

1963・元旦



明けましておめで
とうございます。
今年も幸多きこと
を祈ります。明朗
な豊かな村を築き
上げることは村民
ひとしく希望する
ところであ

めでしょう。今年こそ実現したい
と思います。

② 改良草地と放牧地をうんとひ
ろげましょう。

なんといつても立地条件を活かす
ことが一番利口です。酪農なくし
て村は決して延びません。ぼう大
な原野が、美しいクローバー畑
と変り、栄養のある草をたんま
り食べさせ、広々とした放牧地
でのんびり遊ばされたジャージ
ーは乳を出さずにおられず、和
牛はふとらないでおられないの
です。自然とおやじの財布が重
くなるばかりです。

③ 小屋を利用して畜舎に改造
しましょう

農機具が必要以上に整備されず
ぎました。農協合併によつてラ
イスセンターが出来ると小屋が
ひまになります。この上設備に
無駄をかけてもつまりません。耕
転機で金を使いすぎたので小屋で
節約して、住みよい畜舎に改造し
ましょう。
以上必ず実現するよう努力したい
と思います。ご協力をお願いしてご
挨拶いたします。

3 つの誓い

ります。そのために今年には次
の3つのことを実現するよう
お互い努力することを誓いた
いものです。

① 農協の合併をいたしまし
よう。

農家の所得を他産業なみに引
き上げてゆくことにはいうには
易いが、なかなか困難なこと
です。すでに農業構造改善事
業が他町村でスタートしてお
ります。これがにない手は農
協であります。農協が力強く
なければなりません。昨年合併して
他町村に負けまいよう努力しまし
たが、ついに日のめを見ないでしま
いました。毎日の新聞を見ると動きが
よくわかると思います。しかしこの
村では農協合併についてはほとんど
論議されておられません。一体何のた

民生委員かわる

婦人委員は2名増

恵まれない人たちの
杖とも柱ともな
つて光明を与 ※

れ、5日その辞令伝達式が役場で行われた。この民生委員は厚生大臣の
委嘱によるもので、委員は児童委員の職務も兼ね、その主な役割りは所
得の低い人たちや問題のある年少者の保護と生活指導、その他いろいろ
な社会福祉事業などまったく報いられることの少ない奉仕的な仕事にて
い身される。

なお本村の定員は25人であるが、最近婦人や母子問題が多く、対象者の
相談相手には女性が適任であるとして、婦人委員が今までより増えて7
人になった。

※ えていく民生
委員は、12月1日
全国一斉に改選さ



新 民 生 委 員 名 簿

氏 名	住 所	担 当 部 落
横 山 市重郎	向 田	向田・智者鶴・泡ノ淵
長谷山 久 一	地下沢	地下沢・黒淵・葎沢
長谷山 千代蔵	"	田代・石高
武 田 繁 政	須 郷	袖山・大吹川・須郷
佐 藤 源 吉	時雨山	高戸屋・下小屋・時雨山
小 松 ミ ヨ	須郷田	須郷田・新田・館西
畑 山 愛 子	館 西	宇戸板・新沢
佐 藤 イ ツ子	"	家ノ下・下小路・八日町
高 橋 富 助	久 保	五海保・久保・板戸
古 関 アサノ	松 沢	山崎・松柴
小 松 チ ヨ	湯出野	寺田・湯出野・下通(一部)
小 山 市三郎	茂 沢	祝沢・日照坂・倉・茂沢
小 松 幸 子	老 方	横小路・上通・中通・下通
小 志 金之助	新 町	新町・上里
小 佐 健一郎	新宮ノ前	島・宮ノ前
阿 藤 敏次郎	新 田	新田
阿 部 ナ ミ	蔵	蔵
阿 部 朝 吉	横 渡	横渡・岩館
阿 部 祐次郎	十二前	野田・新処・十二ノ前
遠 藤 莊二郎	小 倉	小倉・中ノ沢・桂台・高村
小 松 善次郎	黒 沢	黒沢・大台
石 綿 王子雄	大 舟	大琴
大 庭 キヨミ	舟 木	舟木・畑村・杉森・奥ヶ沢
畑 山 作左工門	土 場	沼・土場沢・高屋
遠 藤 二三雄	宿	宿・下吹

国 道 工 事

ほとんども完了

国道107号線の本年度建設工事は各地で行われたが、冬を前に
そのほとんどが完了した。
主なものは島・舟木地区の路面
改良工事、蔵地区の舗装工事、
大上橋の永久橋架替工事で、現
在続行中のものは島地区路面改
良工事延長分と黒沢川橋の永久
橋架替工事である。

【写真は左から舟木・蔵・島
地区の工事後の状況】

歳末たすけあい運動 実を結ぶ

生活に困っている人にも明るいお正
月をむかえていただこうと12月に歳
末たすけあい運動が行われた。結果
はお金27,207円、白米682.8キロあ
つまり、これを保護世帯や学童、施
設入所児童、長期入院患者などに配
分し大変感謝された。

計画進度及び第2次計画

	第1次計画 (最終37年)	37年現在	進 度 率 %	第2次計画 (最終41年)
乳牛飼育頭数	500	446	89	1,500
〃 飼育戸数	165	176	107	370
〃 導入頭数	255	248	98	150
〃 消流頭数	15	76	507	130
生乳生産量	780 ^t	650	83	3,000
(生乳販売量)	(690) t	(370)	(54)	(2,700)
草地改良	138 ^{ヘクタール}	170	123	230
畜 舎	165	152	92	300
(共同畜舎)	(0)	(0)	(0)	(12)
サ イ ロ	350	307	87	700
放 牧 場	2	3	150	3
畜産センター	0	0	0	1
共同育成施設	0	0	0	1
干 草 施 設	0	0	0	1
集 乳 所	5	5	100	5

選挙人名簿登録者数

新しい選挙人名簿が12月20日確定した。有権者数は4,980人で前年より101人減となっているがこれは新有権者の数が減少してきているためと選管ではいつている。

投票区	男	女	計	比較
1(黒淵)	185	206	391	△10
2(田代)	166	193	359	△13
3(袖山)	97	105	202	0
合計	2,339	2,641	4,980	△101

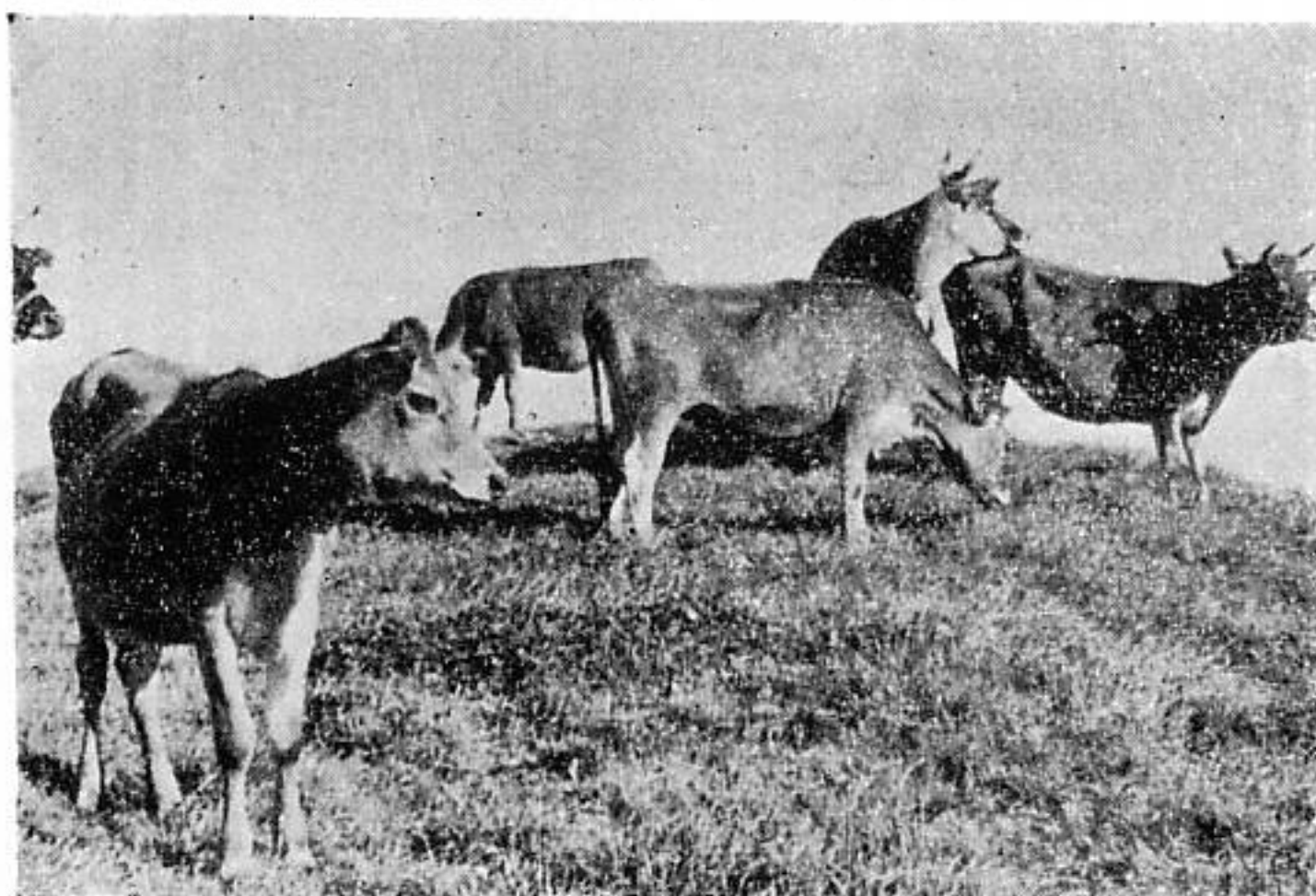
4(館合)	465	504	969	△30
5(松柴)	38	45	83	△1
7(老方)	430	500	930	△5
6(祝沢)	39	43	82	△3
8(高村)	26	27	53	3
9(法内)	176	202	378	△4
10(蔵)	308	355	663	△25
11(大台)	35	40	75	△3
12(大琴)	277	321	598	△9
13(杉森)	97	100	197	△1

本村の産業の静かな革命といわれる酪農をとり入れてから5カ年を経過した。

そして酪農振興計画をみごとに達成したが、このように酪農計画を達成したのは秋田県でも本村がはじめてという。この5カ年は、一面、酪農発展の基盤づくりのために苦闘につぐ苦闘に終止した夜明け前の歴史であり、村ではこの業績をもとに新しく第2次計画をたて、さらに事業の発展を期している。以下連載してこれまでの歩みをふりかえりながら問題をさぐってみよう。

酪農5カ年の歩み ①

計画達成は県ではじめて



酪農日誌抄

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| 32・11 北部鳥海山麓集約酪農地域に指定される | 7 山本村下岩川中学校へ2頭移出 |
| 12 東由利村酪農建設委員会を設立 | 9 第51回県畜産共進会でマツダパイ号(大庭喜右工門飼育)優等賞に入選 |
| 33・3 東由利村酪農振興計画を樹立 | 12 山本村森岳に12頭移出 |
| 6 酪農指導員を採用 | 37・7 東京キリスト教大学よりアメリカ系9頭導入 |
| 10 オーストラリアより、ジャージー牛第1次導入(31頭) | 7 北海道よりニュージーランド系8頭導入 |
| 34・1 東由利村酪農青年連盟を結成 | 7 山本町森岳に13頭移出 |
| 3 オーストラリアより第2次導入(52頭) | 9 東北六県畜産共進会でオケアノス号(大庭喜右工門飼育)金賞に入選 |
| 6 人工授精士2名を嘱託 | 10 寒冷地貸付牛として17頭農林省で買上げ |
| 11 オーストラリアより第3次導入(76頭) | 10 山本町森岳へ9頭移出 |
| 35・1 獣医を採用 | 11 東京キリスト教大学より12頭導入 |
| 4 オーストラリアより最終導入(60頭) | 11 若林放牧場完成 |
| 6 知事代理安井農林部長、村畜産共進会を視察 | 11 湯ノ沢牧野(下吹)県草地競励会で優勝 |
| 11 山本村森岳に13頭移出 | 12 小野勲一、北日本酪農研究会へ県代表として参加 |
| 36・3 長根谷地・朴ノ木沢放牧場完成 | |
| 4 野幌酪農高校東由利分校を開設 | |

